

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 南種子町有機農業推進協議会
都道府県 鹿児島県
対象地域 南種子町有機農業推進協議会
対象品目 安納いも



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

南種子町は、地域の有機資源を活用した環境にやさしい農業生産及び消費を拡大し、オーガニックなまちづくりに取り組むことで、環境汚染や人口減少、高齢化などの様々な課題の解決を目指すため、2022年6月にゼロカーボンシティを宣言し、2050年までに二酸化炭素の実質排出ゼロを目指しているなか、2023年3月にオーガニックビレッジを宣言し、持続可能な食料システムの構築に資する取組として、有機農業を推進している。

種子島においては、青果用さつまいも「種子島安納いも」が全国的にも広く認知され、農林水産省の地理的表示にも認定されている。化学農薬によらない排水対策、簡易キュアリングによる病害対策及びサツマイモ苗移植機の活用による省力化を含めた栽培体系による栽培面積を拡大し、環境にやさしい産地確立を行う。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	植付		殺菌剤等防除			収穫・調整		貯蔵・出荷					
技術名	島内マニュアルに基づく栽培 適正な薬剤利用による防除												



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	植付			殺菌剤等防除									
			収穫・調整										
技術名	栽培マニュアルに記載のとおり												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	35	▶ 45	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 1	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要
〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	節減対象農薬の施用（18回）	▶ 緩傾斜均平、額縁明渠、弾丸暗渠等の排水対策 バイオ苗の利用	排水対策およびバイオ苗の利用により病害発生 の抑制や培土等による雑草生育を抑制し、節減 対象農薬の使用成分回数を低減する（27％ 減、13回）
環境	化学肥料の窒素施用（4kg/10 a）	▶ 土壌分析に基づく有機質資材の活用	有機質資材の使用による化学肥料の窒素施用 量低減による環境負荷の低減（25％減、 3.0kg/10a）
省力	手植え（6.8時間/10a）	▶ 移植機、管理システム活用による作業効率の 向上 収穫後、簡易キュアリングによる貯蔵用芋 の腐敗抑制	腐敗芋慣行に対し50％減 サツマイモ苗移植機の活用による省力化 （60％減 2.7時間/10a）
省力	記帳管理	▶ 営農管理システム	圃場管理や記録管理のデータ化と効率化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	節減対象農薬の施用	18回	▶ 13回	
環境	化学肥料の窒素施用	4kg / 10 a	▶ 3kg/10a	
省力	植付作業時間	6.8h/10a	▶ 2.7h/10a	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

さつまいも関係団体における栽培講習会において、協議会よりマニュアルの説明・配布を行うことで生産への周知・普及を図る。また、必要に応じて、関係機 関において現地指導・現地検討会を開催することで農家への普及促進を図る。
--

関係者の役割

関係者名	南種子町有機農業推進協議会	熊毛支庁・農政普及課	かごしま有機生産組合	
役割	産地戦略の進捗管理・情報発信	技術指導・助言	技術・販売戦略等助言	

その他